

郷土文化財紹介

神社・寺院シリーズ 〈八重梅天満宮〉

中央線の大鉄橋脇の坂道を高部に向かうと高圧線の鉄塔があり、その前に梅の木に囲まれた小さな祠があります。



↑八重梅天満宮全景

ある時小学校の先生から「地域の子供達は鉛筆の神様と言っているが・・・」と尋ねられ、祠を管理して見える吉村さんを訪ねその由来を伺いました。

大昔、当地に大変な頭痛持ちの庄吉さんという人が居て雷神を勧請し祀ったところ頭痛が治ったと伝承されていました。一時荒れ果てていましたが、文久元年(1861)に御嶽講の行者様が靈験あらたかな神様だと言われ再建をしました。その折八重梅の木で菅原道真公を彫像し祀り込んだそうです。小ぶりの木像ですが、彩色も鮮やかな芸術品です。

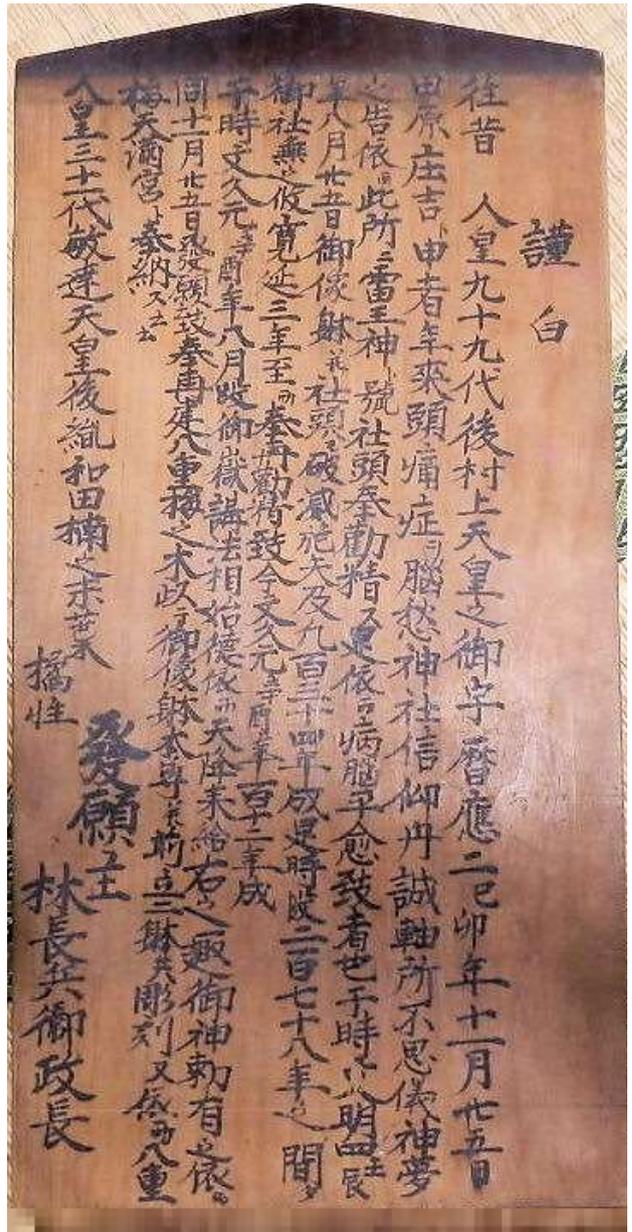
今は子供達が「鉛筆の神様」として親しみ短くなった鉛筆を感謝を込めて奉じています。



↑菅原道真公木像

今の子供達は「鉛筆の神様」として親しみ短くなった鉛筆を感謝を込めて奉じています。

↓八重梅天神由緒書き



謹白
大昔 人皇九十九代後村上天皇の御代曆応二己卯年十一月廿五日 田原庄吉と申す者年来頭痛症を病み愁い神社信仰丹誠まじく所不思議神夢の告げに依りて此の所に雷神と号す社頭奉り勧請す是に依りて病の悩み平癒致す者也 干時文明四壬辰年八月二十五日御像躰並びに社頭も破滅せしやに及ぶ凡そ百三十四年成 この時二百七十八年の間御社これ無き所寛延三年に至りて再勧請奉り致 今文久元辛酉年百十二年成干時文久元辛酉年八月御嶽講法相始徳に依りて天降り来給う右の趣御神勅これ有るに依りて十一月二十五日願致し再建奉り八重梅の木を以て御像躰本尊並び前立ち二躰とも彫刻す依りて八重梅天満宮と奉納す云々
人皇三十一代敏達天皇後胤和田楠の末葉橘姓 發願主 林長兵衛政長